



つながる学校と地域 = コミュニティ・スクール

学校教育課 指導管理主事 山岸一朗

コミュニティ・スクールのモデル校2校である中条小学校と中里中学校で、先進的な取組を進めていただいていることは、この「つながるNo.1」(5月31日発行)でお伝えしたとおりです。

来年4月から市内すべての学校でコミュニティ・スクールがスタートします。十日町市のコミュニティ・スクールは、「学校にある様々な課題を解決するために、今以上に地域の協力を得ることはできないものか」ということで導入が検討されてきたものです。

ただ、今現在も各学校では、様々な面で地域の方々から協力を得ながら日々の教育活動を進められていますし、今度新たに設置する学校運営協議会(この協議会を設置することによって、コミュニティ・スクールになる)と似た制度として、学校評議委員制度がすでにあります。十日町市のコミュニティ・スクールは、さらにそれを一歩進めることを目指します。

コミュニティ・スクールが今までの学校評議員制度と決定的に違うのは、学校評議員制度は各委員が校長に求められたことに意見を言うだけに対して、学校運営協議会では学校運営の基本方針を承認することにあります。学校運営の基本方針について協議して、承認するのですから、意見を言う程度ではなく、学校の運営に参画してもらうこととなります。地域の人や組織から、学校運営に参画してもらい、学校課題の解決に向けて一緒に取り組んでいくことを目指します。

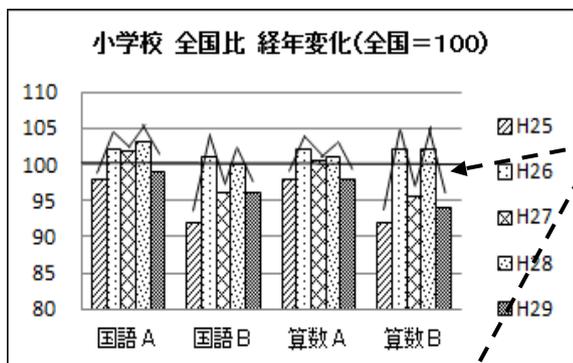
また、新たに学校支援地域コーディネーターという学校と地域を繋ぐ人も設置しますので、学校と地域との「つながり」が、さらに深まることも期待されます。

モデル校以外の学校では、新しい組織を立ち上げる大変さもあるかもしれませんが、中間発表会(12月26日)におけるモデル校2校の発表等を参考にされ、各学校の特色や地域性を生かしたコミュニティ・スクールに成長させていただきたいと思っております。

H29 全国学テから ～自校の分析とメディアコントロールの取組を～

十日町市の平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果については、既に各校の先生方には情報を提供したとおりです。

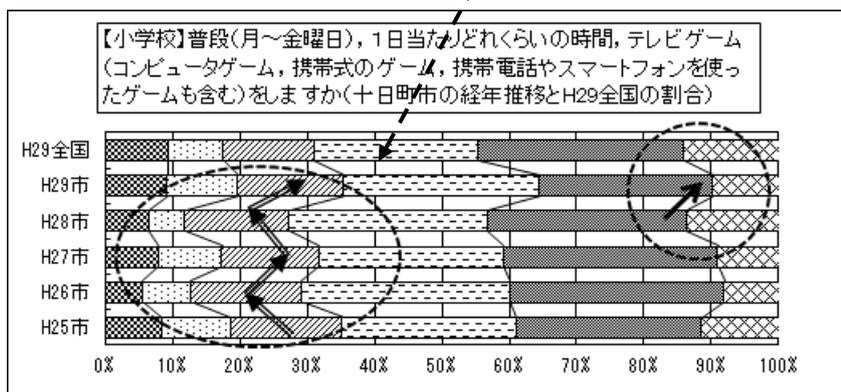
ここでは、小学校の教科の平均正答率とゲームを含むメディアとの接触時間についての相関をお知らせします。



小学校の教科の平均正答率の推移は、ここ5年間上下とバラツキが見られます。このバラツキの波形がゲームの「2時間以上」や「3時間以上」の推移の波形と類似しています。

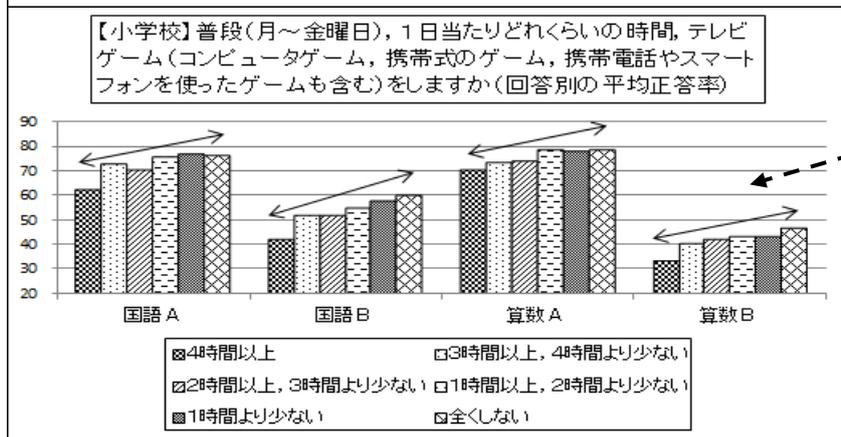
時間が短い年度（H26、H28）は正答率が高く、長い年度（H25、H27、H29）は正答率が低い傾向が見られます。「ゲームの時間」が正答率に影響していると考えられます。

さらに、H29年度は、全国平均や昨年度より、ゲームをする児童の割合が増えています。



「ゲームの時間」について、回答した時間ごとの児童の平均正答率を表したグラフです。左側はゲーム時間が長く、右側へ行くほど時間が短い児童です。どの教科も右肩上がりです。これはゲームの時間が短いほど正答率が高く、長いほど正答率が低い傾向を表しています。

4時間以上ゲームをしている児童と1時間未満の児童では、国語Bで15ポイント、算数Bで10ポイントの差が見られます。



※小学校では、「テレビ、ビデオ、DVD等の視聴時間」でも「ゲームの時間」と同じ状況が見られました。

※中学校では、「ゲームの時間」について、短いほど正答率が高いという傾向が見られました。

各校では、自校の実態の分析と、実態に応じた取組を推進してください。メディアコントロールについては、各校、各中学校区で取り組んでいることと思いますが、取組の点検、見直しを行い、改善策を講じる必要があります。

このメディアコントロールに関しては、学力向上の問題だけでなく、不登校をはじめとする生徒指導上の諸問題とも大きく関連しています。市教委としても、今後、小学校での取組を進めていきます。また、各校においては、家庭や地域との連携、中学校区単位での連携等、実態に応じた取組をお願いいたします。

「特別支援教育」「不登校対策」「人権教育、同和教育」研修会を開催しました

■「第6回特別支援教育研修講座」

11月14日、新潟市障がい者ITサポートセンター・新潟大学山口俊光准教授を講師にお迎えして、川西庁舎で「特別支援教育を支援するICTや支援器具の活用」と題し、様々な有効な支援器具、ICT機器についてご指導いただきました。多様化、複雑化する困り感や教育的ニーズに対応できる様々な用具やICT機器の効果を目の当たりにして、参加された先生方からも、「ぜひ使ってみよう」という感想が多く寄せられました。



■「第2回不登校対策研修会」

11月15日、新潟大学教職大学院の神村栄一教授を講師にお迎えして、川西庁舎で2回目の「不登校対策研修会」を行いました。今回は、各校に「欠席が5日未満」「欠席が5日以上20日未満」「欠席が20日以上」の児童生徒一人ひとりについて不登校傾向シート作成の宿題を課して、参加していただきました。研修会では、グループ協議で持ち寄ったシートをもとに、シート作成上の困難さや成果などを出し合ったり、不登校傾向の児童生徒への対応の在り方について協議したりしました。神村教授からは、各校から提出されたシートの分析のもと、不登校に至っていないがその傾向のある児童生徒への対応について、成果を出している学校の取組を例に挙げご指導いただきました。きめ細やかに一人ひとりの欠席状況を把握し、早めに対応することや連携すること等の大切さを学びました。

■「人権教育、同和教育教職員研修会」

11月16日、小千谷市人権教育・啓発推進計画策定員、浄土真宗本願寺派極楽寺前住職の麻田秀潤様を講師にお迎えして、千手コミセンで「人権教育、同和教育教職員研修会」を開催しました。麻田様からは「部落問題の現在～差別・被差別からの解放～」と題し、部落問題にかかわる歴史的な経過と法律制定の動きや、学校で起こるいじめ問題にも触れながら、差別の現実や差別を生まない教育の大切さを教えていただきました。参加者からは、「差別の現実を分かりやすく教えてもらった」「教室や学校で差別を生まないために努力したい」といった感想が寄せられていました。



フロに学ぶ～授業力向上研修Part2 「中学校 学級活動」

10月2日、南中学校を会場に、上越教育大学の赤坂真二教授をお招きし、「中学校 学級活動『生徒の協働力を高める話し合い活動』」の示範授業（1年生）と講演会「学びに向かう力を引き出す学級集団づくり」を実施しました。



昨年度、東小学校を会場に「小学校 学級活動」を実施し、第2弾として今年度は中学校でと、かねてからお願いしていたところ、今回の貴重な研修の場となりました。学級づくりについては、学力向上のみならず、生徒指導、不登校等の様々な課題を解決するための大切な基盤です。市内外から参加した102名の教職員にとって、有意義な研修となりました。

第2回英語科授業力養成講座「小学校 外国語活動」

11月7日、川治小学校を会場に、長岡市教育委員会英語指導室から吉川純子先生、野澤奈央先生、星野けい子先生をお招きし、「学級担任が主体的に取り組む外国語教育を目指して」というテーマで、5年生外国語活動のTT指導による示範授業と研修会を実施しました。

平成32年度からの小学校3・4年生外国語活動、5・6年生外国語科実施に向けて、来年度より移行措置として3年生以上で15時間の外国語活動が増えます。そのヒントを得る貴重な研修の場になりました。

なお、市教育センターでは、来年度からの移行措置に向けて、新教材に係る研修会、15時間のモデルプランの提示を3学期に行う予定です。



英語ボランティアガイド養成講座“School-Visit Tour”終了！

これまで学んできたことを発表する場として、10月30日吉田中、11月6日十日町高、11月13日十日町中へ学校訪問・プレゼン発表を行いました。中学生5名、高校生5名のプレゼンターは、回を追うごとにプレゼン能力を向上させ、講座のまとめを終えることができました。

なお、中2英語科「観光パンフレットを作ろう」単元の参考、または、活用できるように、講座の受講生が作成したプレゼン資料等を各校へ提供する予定です。



学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～12・1月～

日程	内容【会場】	備考
12月15日（金）	保幼小連携合同研修会【千手コミセン】	上教大吉村義彦教授による研修会
12月18日（月）	小中一貫教育連絡協議会【川西庁舎】	第2回目の小中一貫教育連絡協議会
12月25日（月）	特別支援教育研修講座【川西庁舎】	特別支援学校教員による講座
1月19日（金）	特別支援教育研修講座【川西庁舎】	市内学校教諭による講座

【表紙の説明】

拡大中学校区で行われた絆集会。例年行っている学校説明に代えて、新たな取組として「応援」を取り入れ、来年度入学予定の6年生にエールを送りました。応援団長の凛々しい姿に多くの児童が憧れを抱いていました。